New Generation Classic



GT125/150/160S&GT125/150/160S-R

ユーザーマニュアル

Elegant version



Flame Red



Lemon Yellow



Mint Green



Ivory



Dark Jade

Sport version



Modern Orange



Ivory



Matt silver



Meteorite Grey

R version



Ocean Blue



Pink



Ivory



Amber

はじめに

この度はGT125/150/160＆GT125/150/160Rをご購入いただき、ありがとうございます。ロイヤルアロイの製品は、高い技術力と信頼性に裏打ちされており、製造するRAエンジニアリング社とそのパートナー企業とが持つ、様々な目的に向けてお使いいただけるモーターサイクルやスクーターを製造してきた深い経験や、広範な知見を活用して設計されています。

ロイヤルアロイ製品が市場をリードする立場にあるのは、こうした実力があるからこそと言えるでしょう。

本マニュアルではこのスクーターの使用方法、操作、基本的な点検やメインテナンスなどについて記載しています。もしマニュアルの記載事項で分からないことがあった場合は、ご購入された販売店にお尋ねください。

ロイヤルアロイ製スクーターは、製造日時点で課せられる環境規制に適合した商品です。規制適合状態を維持するためにも、本マニュアルに記載された指示やメインテナンススケジュールを守ってください。

このマニュアルには次の重要な情報が記載されています：

⚠ 注意：必ず従うべき手順を参照してください。従わない場合、個人の安全が危険にさらされる可能性があります。

⚠ 注意：バイクの損傷を防ぐために従わなければならない手順を参照してください.

⚠ 警告: 自分、他の人、またはバイクの怪我を避けるために従わなければならない手順を参照してください。

	⚠ 注目
このマニュアルはスクーターの一部として取り扱いいただき、譲渡されるときも含め、常時携行してください。	

	⚠ 注目
RAエンジニアリング社は商品品質の向上に日夜全力を傾注しています。本マニュアルは印刷時点における最新の情報をもって更新されています。とはいえ、マニュアルの内容が実際の車両とは異なる場合があります。もしご質問などがある場合は、ご購入元の販売店にご相談ください。	

	⚠ 警告
スクーターにお乗りになる前に、本マニュアルを注意深くお読みください。	

目　次

安全運転のための注意事項 ……03
車体番号 ……05
スピードメーターの機能 ……05
　インスツルメントパネル表示―GT ……05
　インスツルメントパネル表示―GTR ……07
　イグニッションスイッチ ……10
　左ハンドルスイッチ―GT ……11
　右ハンドルスイッチ―GT ……12
　左ハンドルスイッチ―GTR ……13
　左ハンドルスイッチ―GTR ……13
　燃料油キャップ ……14
　冷却水キャップ ……15
　シートロック ……16
　収納ボックス ……16
燃料及び油脂類について ……17
　燃料 ……17
　エンジンオイル ……17
　トランスミッションオイル ……17
慣らし運転について ……18
始業前点検について ……19
　ブレーキの効きとレバーの遊び ……19
　フロントブレーキとブレーキリンケージの点検 ……19
　タイヤの点検 ……19
　燃料の残量の点検 ……20
　エンジンオイルレベルの点検 ……20
　オイル交換 ……20
　トランスミッションオイルレベルの点検 ……21
　点火ユニットとライトの点検 ……21
　バックミラーの点検 ……21
　反射板とナンバープレートの点検 ……21
ご乗車にあたって ……22
　エンジンの始動 ……22
　走行開始 ……22
点検とメインテナンス ……24
　初回点検 ……24
　メインテナンススケジュール ……24
　バッテリー ……26
　スパークプラグ ……26
　燃料ホース ……27
　エアーフィルター ……28
　スロットルケーブルの調整 ……28
　タイヤ ……28
　ヒューズ ……29
トラブルシューティング ……30
車両を保管する場合 ……31
諸元表 ……32

安全のための注意事項

交通法規を守り、安全第一でライディングを楽しみましょう。スピードを控え、安全の範囲内でスクーターを走らせましょう。

走り出す前に練習を

自動車との混合交通に乗り出す前に、広く、また交通量の少ない場所でスクーターの操作に慣れるように練習してみましょう。練習は安全のためには不可欠です。ライディングのためのトレーニングを受講したり、必要に応じて試験や資格などの取得も公道に出る前に行いましょう。

ご自身の安全速度を知りましょう

安全な速度とは、道路状況や天候、運転技術などによって異なります。ご自身にとって安全な速度を知っておくことは、交通事故などから身を守る一助になります。

雨天の走行は気を付けて

濡れた路面や湿った路面を走行することは危険です。高速走行は避け、カーブを曲がるときなどは特に注意して走行しましょう。雨天時のブレーキ距離は、好天時の倍以上にも伸びる恐れがあることもよく理解しておくこと。

ライディングに適したヘルメットを着用しましょう

スクーターに乗るときには必ずヘルメットを着用しましょう。顎ひもを正しく締めることも忘れずに。

安全な服装に留意しましょう

比較的明るい色彩の、身体に合った服を選びましょう。規格に合格したプロテクターも有効です。またグローブも必ず装着してください。ヒールの低い靴もお勧めです。

お守りいただきたい保守・点検

下記の各項を必ずお守りください

- 始業前点検を必ず行うこと。
- 半年ごとに定められた点検を行うこと。
- 1年ごとに定められた点検を受けること。
- メインテナンススケジュールに示す点検内容に従うこと。

高温に注意

マフラーは高温になり、やけどをする恐れがあります。通行人などがマフラーに触れてやけどする恐れが無いよう、駐車時には十分に注意してください。また綿くずなどの可燃物は火災の原因となる可能性があるため、エンジンやマフラーの近くに置かないでください。

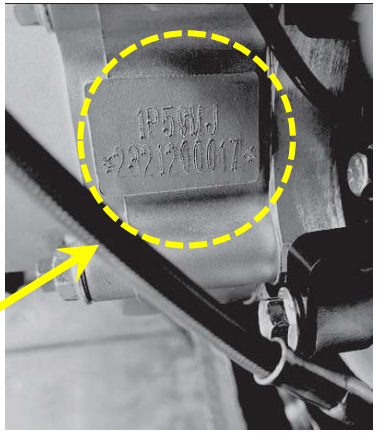
不正な改造を行わないこと

車両の安全性を確保するためにも、不正な改造などを行わないこと。

車体番号/エンジン番号

エンジン番号

エンジン番号はクランクケースアセンブリの後部に打刻されています。右の写真でご確認ください。



エンジン番号

> **注目**
> 補修部品を正しく発注するためにも、エンジン番号や車体番号を控えておいてください。

車両銘板

車両の右側にあります。

車体番号

車体番号は、矢印の部分のメインベンドの内側のフレームに刻印されています。

今後のために、車体番号とエンジン番号を以下に控えておいてください。

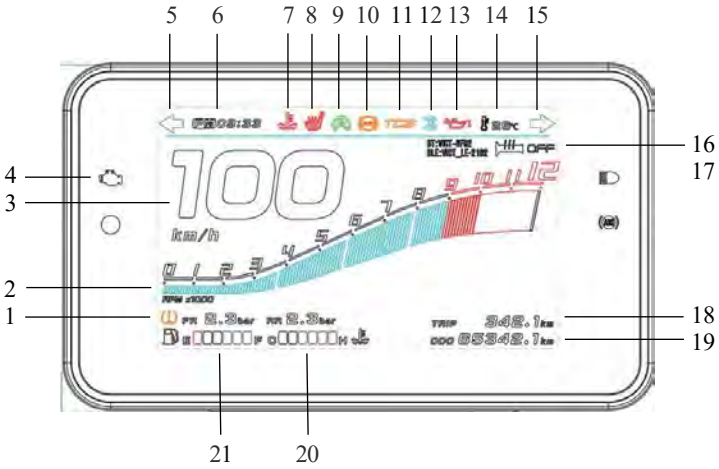
車体番号：
エンジン番号：



車両銘板

スピードメーターの機能

インスツルメントパネル表示―GT



1、タイヤ空気圧 インジケーター

前輪と後輪の空気圧を表示します。前輪は180～230KPa、後輪は200～280Kpaから外れると警告されます。

タイヤ空気圧の学習：
MODEボタンを長押ししてメニュー画面に入り、MODEボタンを短く押してタイヤ空気圧設定画面を表示。SELボタンを短く押したあとMODEボタンを短く押して前輪と後輪のセンサーを学習させます。タイヤ空気圧センサーと機器をペアリングさせるとマッチングが行われます。



機器をゆっくりと上下に動かし、エアノズルに近づけて確定ボタンを押し、ゴムタイヤの端に軽く上下に動かします。この時、ディスプレイ上部に「マッチングコード」が表示されます。「ピー」という音が鳴ったら、マッチング機器がタイヤ内のセンサーを読み取り、機器が信号を受信してペアリングを完了します。

2、エンジン回転計

エンジン回転数をバーインジケーターで表示します。

3、スピードメーター

現在の速度をキロもしくはマイルで表示します。

4、システム警告灯（MIインジケーター）

この警告灯が点灯したら直ちに運転をやめ、お買い求めの販売店に相談してください。

5/15、左ウインカー＆右ウインカー インジケーター

左右のインジケーターが示す通りに、車両のウインカーが点滅していることを表示します。

6、時計

現在の時刻を表示します。

7、水温警告灯

水温が120℃を越えると、赤色のランプが点灯します。

8、シートヒーター インジケーター

現在のシートヒーターの状態を表示します。

9、アイドリングストップ インジケーター

アイドリングストップの流れ

パワーオン表示	メインキーをオンにすると、アイドリングストップ インジケーターが2秒間点灯し、その後消灯します。
↓ アイドリングストップ切替表示	アイドリングストップスイッチをOFFからONに切り替えると、インジケーターが2秒間点灯し、その後消灯します。OFFの場合は、すぐに消灯します。
↓ アイドリングストップの設定	アイドリングストップシステムをONにしてエンジンを始動し、車速が15km/hを超えると、3秒以内にシステムの設定が完了します。
↓ アイドリングストップモード	アイドリングストップシステムの設定が完了し（スロットルを開けて始動した場合も含む）、エンジンの温度が65℃を超えると、アイドリングストップモードに入り、アイドリングストップインジケーターが点灯した状態になります。
↓ アイドリングストップ中	車両が停止してスロットルから手を離し、全閉状態で3秒経過するとエンジンが自動的に停止します。アイドリングストップシステムが機能している間は、アイドリングストップインジケーターが1秒間隔で点滅します。
↓ アクセルを開けて再スタート	アクセルを開けるとエンジンは自動的に再始動し、インジケーターが点灯します。エンジンが正常に始動すると、次の停車で再びアイドリングストップします。エンジンが正常に始動しない場合は、インジケーターが再び1Hzで点滅し、次のスロットル操作を待ちます。

アイドリングストップシステムが故障したとき

トラブル内容 → インジケーターの点灯状態

① CAN異常 → 2回ゆっくりと点滅
② 始動停止電圧低下 → 4回ゆっくり点滅
③ 過電流保護 → 2回速く点滅
④ 全異常 → 3回速く点滅
⑤ 過電圧保護 → 4回速く点滅
⑥ モーターストール → 5回速く点滅
⑦ リレー異常 → 6回速く点滅
⑧ 始動タイムアウト → 7回速く点滅
⑨ バッテリー消耗 → 8回速く点滅

10、ABS インジケーター

走行中にこの警告灯が点灯し続ける場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

11、TCS インジケーター

TCS（トラクションコントロールシステム）のオン/オフを表示。
TCSがオフのときとABSが故障したときに点灯します。

12、Bluetooth インジケーター

Bluetooth機器が接続されているときは青色に点灯します。

13、油圧警告灯

走行中にこの警告灯が表示された場合は、すぐにエンジンを停止してください。オイルレベルを確認し、OKであれば、お買い求めの販売店にご相談ください。

14、温度計

周囲の気温を表示します。

16、グリップヒーター インジケーター

グリップヒーターの作動を表示します。ヒーターが作動していない場合は表示されません。

17、ハイビーム インジケーター

18、トリップメーター インジケーター

バイクの区間距離計を表示します。

19、オドメーター インジケーター

バイクの累計走行距離を表示します。

20、水温計

21、燃料計

ガソリンタンク内の燃料残量をバーグラフで表示します。バーが「F」まであると燃料が満タンです。最後の赤いバーに達したら燃料補給が必要です。さらに燃料が減ると赤く点滅するので、できるだけ早く給油してください。なお、バー1と6の点滅はプラグが外れていることを示します。

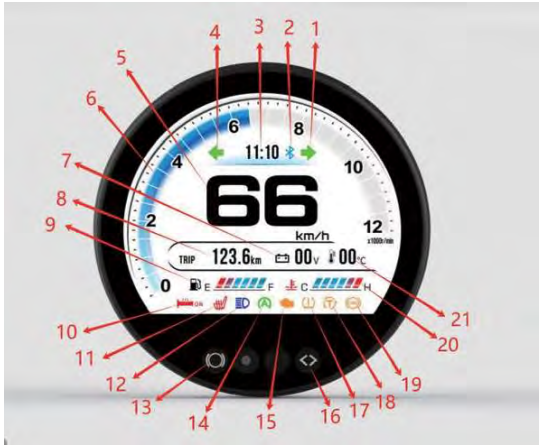
ボタン/キーの操作方法

「MODE」キーを長押ししてメニュー設定に入ります：

インターフェイス切り替え	「MODE」キーを短く押してカーソルをインターフェイス設定オプションに移動。「SEL」キーを短く押すと設定メニューに入ります。そこで「MODE」キーを短く押すと、夜間／昼間／自動とモードが切り替わります。設定後に「SEL」キーを長押しして設定画面を終了します。
時計設定	「MODE」キーを短く押してカーソルを時計設定オプションに移動。「SEL」キーを短く押して設定メニューに入ります。そこで「MODE」キーを短く押して調整したい値にあわせ、「SEL」キーを短く押すと値を変更できます。設定後に「SEL」キーを長押しして設定画面を終了します。
バックライト設定	「MODE」キーを短く押すとカーソルがバックライト設定オプションに移動。「SEL」キーを短く押すと設定メニューに入ります。そこで「MODE」キーを短く押すと、1、2、3、4、5の項目が順番に切り替わります。設定後に「SEL」キーを長押しして設定画面を終了します。
言語設定	「MODE」キーを短く押してカーソルを言語設定オプションに移動。「SEL」キーを短く押して設定メニューに入ります。そこで「MODE」キーを短く押すと言語が切り替わります（英語/中国語）。設定後に「SEL」キーを長押しして設定画面を終了します。
モバイルBluetooth	「MODE」キーを短く押してカーソルを携帯電話のBluetoothオプションに移動。「SEL」キーを短く押して設定メニューに入ります。そこで「MODE」キーを短く押して Bluetooth のオン/オフを切り替え、設定後に「SEL」キーを長押しして設定画面を終了します。携帯電話の Bluetooth インターフェイスには、クラシック Bluetooth と BLE Bluetooth の名前が表示されます。
タイヤ空気圧パラメータ	「MODE」キーを短く押してカーソルをタイヤ空気圧パラメータのオプションに移動。「SEL」キーを短く押して設定メニューに入ります。そこで「SEL」キーを短く押して単位を切り替え、「MODE」キーを短く押してカーソルを前輪センサー学習と後輪センサー学習に移動します。「SEL」キーを短く押して学習を開始。設定後に「SEL」キーを長押しして設定画面を終了します。
システム情報	「MODE」キーを短く押すと、カーソルがシステム情報オプションに移動します。
ファクトリーモード	「MODE」キーを短く押すとカーソルがファクトリーモードオプションに移動。「SEL」キーを短く押すと設定メニューに入ります。そこで「SEL」キーを短く押すとパスワード累積が設定され、「MODE」キーを短く押すとシフト、動作パラメータの設定、カスタマーリセットなどの操作が行えます。

スピードメーターの機能

インスツルメントパネル表示—GTR



1/4、左ウインカー&右ウインカー インジケーター

左右のインジケーターが示す通りに、車両のウインカーが点滅していることを表示します。

2、Bluetooth インジケーター

Bluetooth機器が接続されているときは青色に点灯します。

3、時計

現在の時刻を表示します。

5、スピードメーター

現在の速度をキロもしくはマイルで表示します。

6、エンジン回転計

エンジン回転数をバーインジケーターで表示します。

7、電圧インジケーター

バッテリーの電圧を表示します。

8、走行距離表示

左ボタンを短く押すことで、トリップメーターとオドメーターを交互に表示します。

9、燃料計

ガソリンタンク内の燃料残量をバーグラフで表示します。バーが「F」まであると燃料が満タンです。最後の赤いバーに達したら燃料補給が必要です。さらに燃料が減ると赤く点滅するので、できるだけ早く給油してください。なお、バー1と6の点滅はプラグが外れていることを示します。

10、グリップヒーター インジケーター

グリップヒーターの作動を表示します。ヒーターが作動していない場合は表示されません。

11、シートヒーター インジケーター

現在のシートヒーターの状態を表示します。この機能はオプション設定になります。

12、ハイビーム インジケーター

13/16、左/右ボタン

メニュー設定画面に入り、ファンクションキーを操作します。

9、アイドリングストップ インジケーター

アイドリングストップの流れ

パワーオン表示	メインキーをオンにすると、アイドリングストップ インジケーターが2秒間点灯し、その後消灯します。
アイドリングストップ切替表示	アイドリングストップスイッチをOFFからONに切り替えると、インジケーターが2秒間点灯し、その後消灯します。OFFの場合は、すぐに消灯します。
アイドリングストップの設定	アイドリングストップシステムをONにしてエンジンを始動し、車速が15km/hを超えると、3秒以内にシステムの設定が完了します。
アイドリングストップモード	アイドリングストップシステムの設定が完了し（スロットルを開けて始動した場合も含む）、エンジンの温度が65℃を超えると、アイドリングストップモードに入り、アイドリングストップインジケーターが点灯した状態になります。
アイドリングストップ中	車両が停止してスロットルから手を離し、全閉状態で3秒経過するとエンジンが自動的に停止します。アイドリングストップシステムが機能している間は、アイドリングストップインジケーターが1秒間隔で点滅します。
アクセルを開けて再スタート	アクセルを開けるとエンジンは自動的に再始動し、インジケーターが点灯します。エンジンが正常に始動すると、次の停車で再びアイドリングストップします。エンジンが正常に始動しない場合は、インジケーターが再び1Hzで点滅し、次のスロットル操作を待ちます。

アイドリングストップシステムが故障したとき

トラブル内容 → インジケーターの点灯状態

① CAN異常 → 2回ゆっくりと点滅
② 始動停止電圧低下 → 4回ゆっくり点滅
③ 過電流保護 → 2回速く点滅
④ 全異常 → 3回速く点滅
⑤ 過電圧保護 → 4回速く点滅
⑥ モーターストール → 5回速く点滅
⑦ リレー異常 → 6回速く点滅
⑧ 始動タイムアウト → 7回速く点滅
⑨ バッテリー消耗 → 8回速く点滅

15、システム警告灯（MIインジケーター）

この警告灯が点灯したら直ちに運転をやめ、お買い求めの販売店に相談してください。

17、タイヤ空気圧 インジケーター

前輪と後輪の空気圧を表示します。前輪は180～230KPa、後輪は200～280Kpaから外れると警告されます。

タイヤ空気圧の学習：

左ボタンを長押ししてメニュー画面に入り、左ボタンを短く押してカーソルをタイヤ空気圧パラメータオプションに移動します。右ボタンを短く押して設定メニューに入ります。そこで右ボタンを短く押して空気圧の単位を切り替え、左ボタンを短く押してカーソルを前輪センサー学習と後輪センサー学習に移動します。右ボタンを短く押して学習を開始し、右ボタンを長押しして設定を終了します。

タイヤ空気圧学習は、正規ディーラーによって行うことができます。

タイヤ空気圧学習診断装置：

1. 装置の動作が学習プロセスに入ります。
2. エアタップ側で、診断装置をホイールリムとタイヤの接続部に密着させ、タイヤの位置に合わせて傾けます。前後タイヤの空気圧測定は左下のドットキーを押すことで、Bluetoothタイヤ空気圧測定は右下の確定キーを押すことで起動します。起動に成功すると「ピー」という音が鳴り、診断装置にタイヤ空気圧データが表示され、ペアリングフレームが送信されます。
3. 計器盤がペアリングフレームを学習し、後輪に対して同じ操作を繰り返します。

タイヤ空気圧学習 - 空気圧の上昇と下降：

1. 装置の動作が学習プロセスに入ります。
2. 空気圧の上昇または下降が急激に増加します。
3. 計器盤がペアリングフレームを学習し、後輪に対して同じ操作を繰り返します。

18、TCS インジケーター

TCS（トラクションコントロールシステム）のオン/オフを表示。TCSがオフのときとABSが故障したときに点灯します。

19、ABS インジケーター

走行中にこの警告灯が点灯し続ける場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

20、水温 インジケーター

冷却水の温度を表示します。水温が112℃を超えると6つのバーすべてが点滅し、水温警告ランプが赤色に点灯します。水温センサーから計器への回路が断線している場合は1と6のバーが点滅します。

21、温度計

周囲の気温を表示します。

メニュー設定の方法

左ボタンを長押ししてメニュー設定に入ります。

インターフェイス切り替え	左ボタンを短く押してカーソルをインターフェイス設定オプションに移動。右ボタンを短く押すと設定メニューに入ります。そこで左ボタンを短く押すと、夜間／昼間／自動とモードが切り替わります。設定後に右ボタンを長押しして設定画面を終了します。
時計設定	左ボタンを短く押してカーソルを時計設定オプションに移動。右ボタンを短く押して設定メニューに入ります。そこで左ボタンを短く押して調整したい値にあわせ、右ボタンを短く押すと値を変更できます。設定後に右ボタンを長押しして設定画面を終了します。
ユニット設定	左ボタンを短く押すとカーソルがユニット設定オプションに移動。右ボタンを短く押すと設定メニューに入ります。そこで左ボタンを短く押すとシステム選択が切り替わります。設定後に右ボタンを長押しして設定画面を終了します。
バックライト設定	左ボタンを短く押してカーソルをバックライト設定オプションに移動。右ボタンを短く押すと設定メニューに入ります。そこで左ボタンを短く押すと、l、2、3、4、5の順に切り替わります。設定後に右ボタンを長押しして設定画面を終了します。
言語設定	左ボタンを短く押してカーソルを言語設定オプションに移動。右ボタンを短く押して設定メニューに入ります。そこで左ボタンを短く押すと言語が切り替わります（英語/中国語）。設定後に右ボタンを長押しして設定画面を終了します。
モバイルBluetooth	左ボタンを短く押してカーソルを携帯電話のBluetoothオプションに移動。右ボタンを短く押して設定メニューに入ります。そこで右ボタンを短く押して Bluetooth のオン/オフを切り替え、設定後に右ボタンを長押しして設定画面を終了します。携帯電話の Bluetooth インターフェイスには、クラシック Bluetooth と BLE Bluetooth の名前が表示されます。
タイヤ空気圧パラメータ	左ボタンを短く押してカーソルをタイヤ空気圧パラメータのオプションに移動。右ボタンを短く押して設定メニューに入ります。そこで右ボタンを短く押して単位を切り替え、左ボタンを短く押してカーソルを前輪センサー学習と後輪センサー学習に移動します。右ボタンを短く押して学習を開始。設定後に「SEL」キーを長押しして設定画面を終了します。
車両設定	左ボタンを短く押すとカーソルが車両設定オプションに移動。右ボタンを短く押すと設定メニューに入ります。そこで右ボタンを短く押すとパスワード累積設定、左ボタンを短く押すとシフト、パラメータ設定、カスタマーリセットなどの機能の操作が行えます。

ナビゲーション

GTシリーズはAppを通じてGoogleMapを用いたナビゲーションを行い、その画像をダッシュボードに表示することが可能です。なお、この機能はGoogle並びにApp開発会社の都合により使えなくなる可能性があります。予めご承知おきください。

1. 電源を投入し、MODEボタンを押します。
2. QRコードが表示されるので、表示に従ってAppをスマートフォンにダウンロードしてください。
3. スマートフォンのBluetoothを起動し、その後Appを起動。スマートフォン側からダッシュボード画面に記されているIDのBluetoothに接続します。
4. 接続したら、スマートフォン側のメニューでナビゲーションをお楽しみください。また、スマートフォンのホーム画面の表示をダッシュボードに反映（ミラーリング）することも可能です。
5. ナビ等の操作のすべてはスマートフォンで行ってください。
6. 走行中にナビやダッシュボードの情報、画面を中止することは運転をおろそかにする可能性がある危険な行為です。十分にご注意ください。

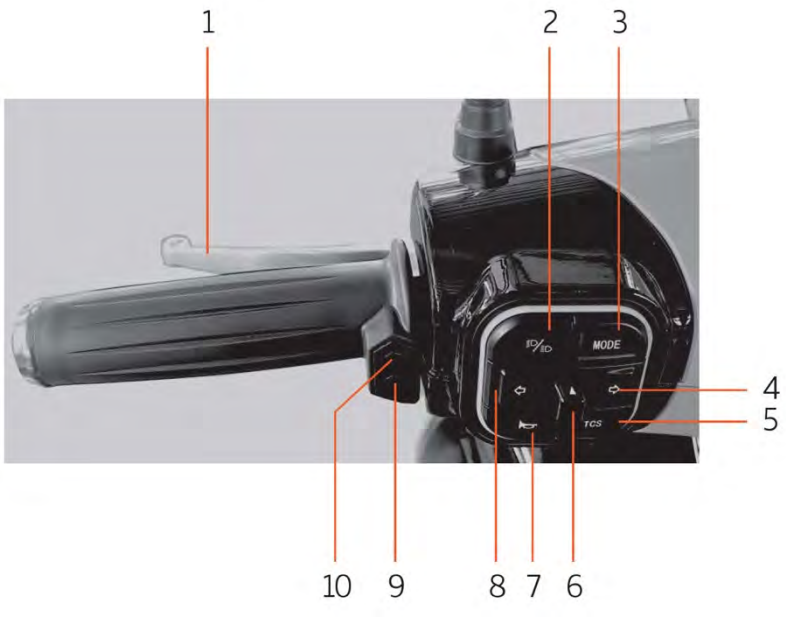
イグニッションスイッチ

1. キーを差し込み、時計回りに回すと電源が入ります。
2. キーを差し込み、反時計回りに回すとシートロックが解除できます。
3. キーを差し込み、押しながら時計回りに回すと左側の燃料キャップが開きます。
4. キーを押し込んで反時計回りに回すと、ハンドルロックがかけられます。

> ⚠ **注目**
>
> リモートキーが車体の近くにある場合は、キーを挿入しなくても上記の操作を行うことができます。



左ハンドルバースイッチ—GT



1、左ブレーキレバー

ブレーキレバーの操作によって、スクーターの速度を調整し、徐行させたり停止させることが可能です。ブレーキはレバーをグリップに近づけるように丁寧に引き寄せることで効かせることができます。ブレーキレバーを握ると、後部制動灯（リアブレーキライト）が点灯します。

2、ビームスイッチ

ヘッドライトが照らす方向（ハイ／ロー）を切り替えるために使用します。

3、モードボタン

「MODE」キーを短く押すとスマートフォンとの接続画面に入ります。QR コードをスキャンして専用アプリをダウンロードし、アプリでナビゲーション、スマホ画面のミラーリング、または電話のロックなどを設定します 。
「MODE」キーを長押しするとメニュー設定画面に入り、
「MODE」キーを短く押すとオプションが選択できます 。

4/8、右／左ウインカー インジケーター

5、TCSボタン

TCS （トラクションコントロール）の設定スイッチ。ボタンを3〜5秒間押すとTCSがオフになります。そのときTCSライトが点灯してオフであることを示しますが、ABSライトは点灯しません。

6、ウインカースイッチ（方向指示器）

安全な方向転換やレーンチェンジのために、右もしくは左のウインカーを点灯させるためのスイッチです。

7、ホーンボタン

警音器（ホーン）を鳴らすときに押します。

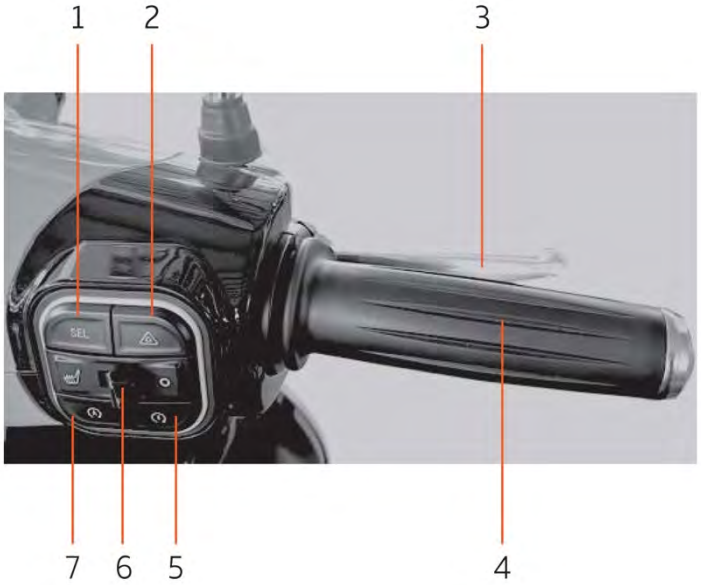
9、グリップヒーターボタン

グリップヒーターを使うときに押します。電圧が12.2±0.2V以下になると自動的に出力をオフにし、約15秒後にスリープモードに入ります。また電圧が16±0.2Vを超えても出力がオフになり、約2秒後にスリープモードに入ります。

10、グリップヒーター温度表示

ランプが青／緑／赤の順にグリップヒーターの設定温度が上がっていきます。

右ハンドルバースイッチ—GT



1、「SEL」ボタン

「SEL」ボタンを短く押すと、単位（メートル／ヤード・ポンド）を切り替えることができます。「SEL」ボタンの長押しでトリップメーターを0にリセットできます。
左ハンドルスイッチの「MODE」ボタンを長押しするとメニューバーが表示され、「MODE」ボタンを短く押すとメニューのオプションを切り替えることができ、「SEL」ボタンを短く押すとサブメニューに入り設定できます。「SEL」ボタンの長押しするとサブメニューから退出します。

2、ハザードボタン

ハザード（左右のウインカーを同時に点滅させる）のオン／オフに使います。

3、右ブレーキレバー

ブレーキレバーの操作によって、スクーターの速度を調整し、徐行させたり停止させることが可能です。ブレーキはレバーをグリップに近づけるように丁寧に引き寄せることで効かせることができます。後部制動灯（リアブレーキライト）は、右もしくは左のブレーキレバーを握りこむことで点灯します。

4、スロットルグリップ

スロットルグリップは、エンジン回転数の調整に使います。手前にひねることでスピードは上がり、スロットルグリップを戻す（奥に回す）と減速します。

5、スターターボタン

エンジンを始動させるときに使うボタンです。イグニッションスイッチを「ON」にし、右ブレーキレバーを握りながらボタンを押すとエンジンが始動します。

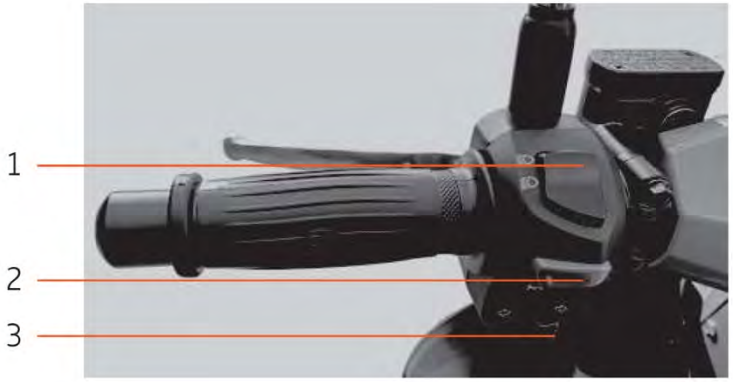
6、シートヒーターボタン

シートヒーターのオン／オフに使います。

7、アイドリングストップボタン

アイドリングストップ機能のオン／オフに使います。
ボタンを2～3秒押すと、メーターに表示が出て、アイドリングストップ機能が有効になります。
再びボタンを長押しするとメーターの表示が消え、アイドリングストップ機能が無効になります。

左ハンドルバースイッチ—GTR



1、ビームスイッチ

ヘッドライトが照らす方向（ハイ／ロー）を切り替えるために使用します。

HIGH	**ハイビームが点灯します。**
LOW	**ロービームが点灯します。**

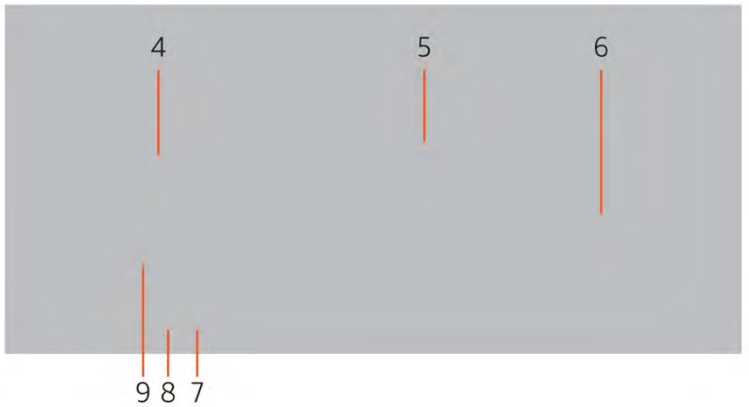
2、ホーンボタン

警音器（ホーン）を鳴らすときに押します。

3、ウインカースイッチ（方向指示器）

安全な方向転換やレーンチェンジのために、右もしくは左のウインカーを点灯させるためのスイッチです。
右に押すと右ウインカーが点滅し、左に押すと左ウインカーが点滅します。スイッチを中央に戻すとウインカーは消えます。
※ウインカーが不要な場合は、必ずオフにしてください。周囲の車両に迷惑をかける原因となります。

右ハンドルバースイッチ—GTR



4、ハザードボタン

ハザード（左右のウインカーを同時に点滅させる）のオン／オフに使います。

5、右ブレーキレバー

ブレーキレバーの操作によって、スクーターの速度を調整し、徐行させたり停止させることが可能です。ブレーキはレバーをグリップに近づけるように丁寧に引き寄せることで効かせることができます。後部制動灯（リアブレーキライト）は、右もしくは左のブレーキレバーを握りこむことで点灯します。

6、スロットルグリップ

スロットルグリップは、エンジン回転数の調整に使います。手前にひねることでスピードは上がり、スロットルグリップを戻す（奥に回す）と減速します。

7、スターターボタン

エンジンを始動させるときに使うボタンです。イグニッションスイッチを「ON」にし、右ブレーキレバーを握りながらボタンを押すとエンジンが始動します。

8、アイドリングストップボタン

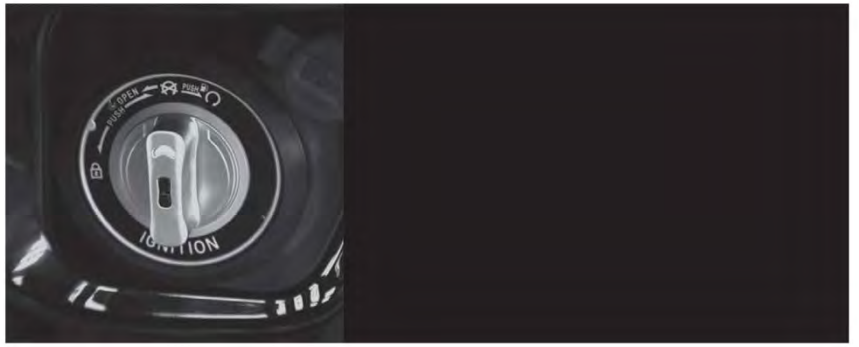
アイドリングストップ機能のオン／オフに使います。

9、TCSボタン

TCS（トラクションコントロール）機能のオン／オフに使います。

燃料タンクキャップ

1、キーを差し込み、ノブを押して右に回すと燃料タンクキャップが開きます。



⚠ 注 目

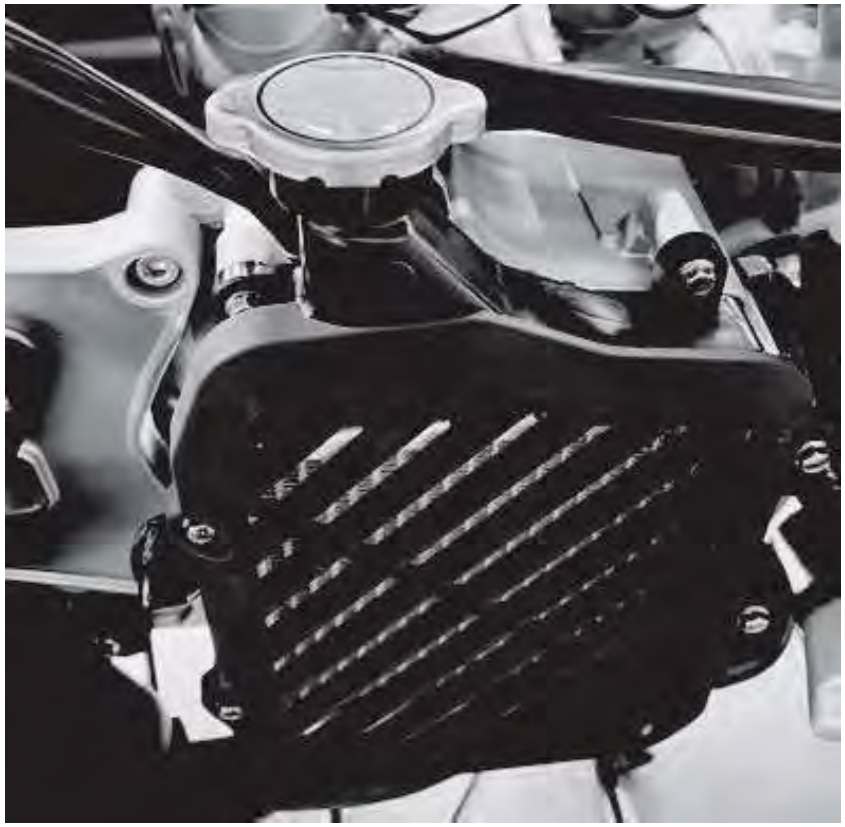
リモートキーが車体の近くにある場合は、キーを挿入しなくても上記の操作を行うことができます。

2、燃料タンクキャップを回して外し、タンクキャップホルダーの上に置いてください。



3、給油が終わったらキャップをしっかりと締め直してください。

冷却水タンクキャップ



⚠ 警告
・エンジンが熱いときは、冷却水タンクキャップを開けないでください。 ・熱い冷却水が吹き出し、火傷などケガの原因になります。

サイドスタンド

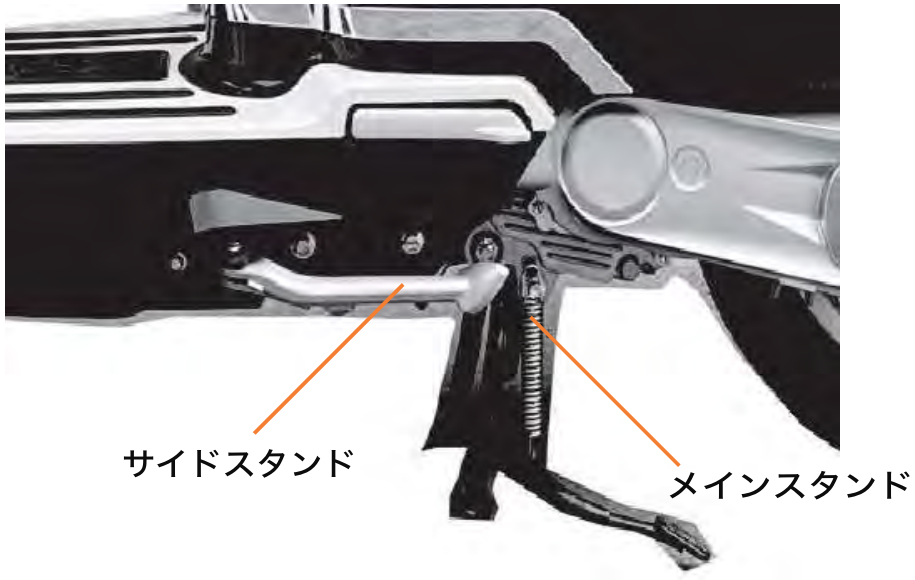
サイドスタンドは、サイドスタンド後端を強く押し下げ、前方に止まるまで回転させて使用します。

注意：サイドスタンドが完全に格納されていないと、エンジンは始動できません。

メインスタンド

メインスタンドは、まず足でスタンドの両端が地面に届くまで押し下げ、次にリヤキャリアを使ってスクーター後部を後方に引くようにしてスタンドが確実に出て車体を支え、リアタイヤが浮くようにして使用します。

※メインスタンドを使用する際には、必ずスクーターが平面、あすいは坂の上に向かって置かれていることを確認してください。



シートロック

1、イグニッションスイッチを左（反時計回り）に回して、シートロックを解除すると、シートを持ち上げることができます。



2、シートの閉めかた

シートをしっかり押し込んでロックされるのを確認してください。



収納ボックス

シートクッションを開けると、ジェットヘルメットなどが入る収納ボックスが現れます。



注意

収納ボックスには
- 壊れやすいものを入れないでください。
- 貴重品を入れないでください。
- 燃料やオイルを入れないでください。
- 防水性のある物のみを収納してください。

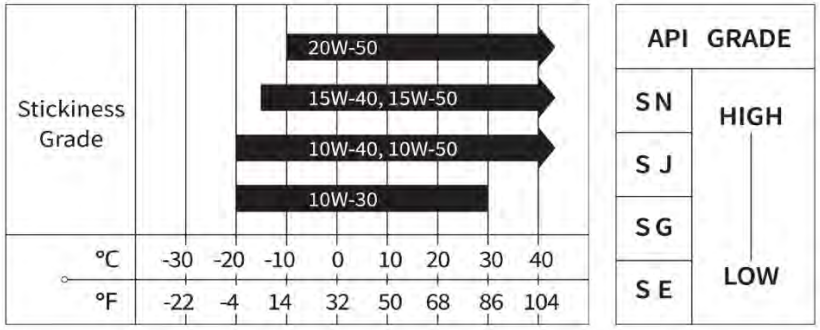
燃料とオイルの推奨事項

燃料

オクタン価90以上の無鉛ガソリンのみを使用してください。有鉛ガソリンや添加剤の使用は、特に排ガス浄化装置（キャタリティックコンバーター）を損傷させかねません。

エンジンオイル

エンジンの性能を維持し、寿命を保つためにも、高品質の4 サイクルエンジン用半化学合成油を使用してください。オイル粘度はSAE 10W-40 以上、API 指数 SN または SJグレードのオイルを使用すること。推奨品はMOTUL SCOOTERPOWER 5W-40。同等のオイルを入手するため、下記の粘度表を参考にしてください。



トランスミッションオイル

高品質の EP 80w90 相当品のギアオイルを使用してください。
推奨品は MOTUL GEARBOX 80W90 です。
API分類： GL4, GL5

慣らし運転について

お使いのスクーターの寿命を決定するのは、最初の1000㎞と言われています。この間、正しい慣らし運転を行うことで、スクーターの寿命は最大化され、また存分にその実力を発揮するようになります。製造工程で用いられる部品は極めて高品質な素材で製造され、最大限の精度（最小限の公差）をもって作り上げられています。正しい慣らし運転によって、機械加工された金属の表面が磨き上げられ、その後のエンジンのスムーズな動きにつながるでしょう。 おおむね60時間程度の走行で内部部品の感触が向上し、この慣らし期間中にエンジンは柔らかく滑らかに動くようになり、性能は向上するのです。

慣らし期間中のスロットル開度について

以下の表に示したように、慣らし期間中はアクセルの開度を控えて運転しましょう。

最初の160kmまで	スロットル開度は1/2以下
161～400kmまで	スロットル開度は3/4以下

エンジン回転数は 幅広く試しましょう

エンジン回転数は一定で走ることなく、様々な回転数を試しましょう。これによってエンジン内部の各部品に適切な負荷がかかったり、休められたりして、慣らしが進行していきます。慣らし運転には適度な負荷をかけることが必要なのです。とはいえ、過度な負荷をかけることが無いよう、アクセル開度の上限を守って、適切にエンジンを回してあげてください。

連続した低速度での走行は避けましょう

慣らし期間中に一定の低速度でエンジンを走らせることは避けてください。決められた範囲内で自由に加減速をしてください。
ただし最初の1,600 kmまでは、アクセルを10 分以上全開にしたまま走らないでください。

走行前にエンジンオイルを各部に行き渡らせましょう

エンジン始動後、負荷をかけたり回転を上げたりする前に、エンジンを十分に暖気してオイルを各部にいきわたらせましょう。オイルはエンジンにとっての血液です。エンジンの寿命を永らえるためにも、この工程を忘れずに行いましょう。

初回点検を必ず行いましょう

初回1000 ㎞の点検は、ご愛用のスクーターにとって最も重要な点検でもあります。慣らし運転の間、エンジン内のコンポーネンツが動き、緩み、または偏ったりと、さまざまなことが起きます。点検でこれらをリセットし、すべての締結部品を締めなおし、古いオイルを新しいオイルに入れ替えましょう。1000 ㎞時における適切なメインテナンスは、エンジンの寿命を延ばし、その後の点検間隔も適切なものにしてくれます。

⚠ 注 意

初回1000㎞点検は、本マニュアルのメインテナンス・セクションに詳述されています。十分に同項の警告や注意に着目しながら点検を実施してください。適切な点検を受けなかった場合、車両の保証の適用外となります。

始業前点検について

スクーターにお乗りになる前に、以下の各項の始業前点検を行いましょう。点検を軽んじることなく、必ずすべての項目の点検を行ってから乗車してください。

⚠ 警告

積載されているバッテリーが満充電であること、バッテリーが適切に固定されていること、バッテリーのターミナルやコネクターがきちんと固定されていることを確認してください。バッテリーとコネクターのゆるみは、ECUのような重要電装部品を破壊しかねません。

点検項目	点検内容
ステアリングハンドル	1、スムーズに左右に動くこと
	2、動きに引っ掛かりや違和感がないこと
	3、不必要な遊びやがたつきがないこと
ブレーキ	1、レバーの遊びが適切であること
	2、ブレーキの作動に異常がないこと
タイヤ	1、適切な空気圧であること
	2、十分に溝の深さが残っていること
	3、ひび割れ、切り傷などがないこと
燃料	十分な燃料が入っていること
灯火類	ヘッドライト、テールライト、ブレーキライト、ウィンカーなど、すべての灯火類が作動すること
警告灯	オイル警告灯、ABS警告灯やその他の警告灯に不具合がないこと
ホーン	正しく機能すること
エンジンオイル	適正なレベル（量）にあること
スロットル	1、スロットルの遊びが適切であること
	2、スロットルを離した際、スムースかつ適切に全閉まで戻ること

ブレーキの利き具合とレバーの遊びの点検

ブレーキレバーをブレーキが利き始める（握って硬さが感じられる）まで握りこみます。そのときレバー先端の移動距離（遊び）が 10～20mmになるように調整してください。

フロントブレーキとアンチダイブリンクの点検

ステアリングを左右に動かしてアンチダイブリンクバーが自由に動くかを確認します。上下の動きに過度の遊びが見つかった場合は、お買い求めの販売店に相談してください。

タイヤの点検

1、タイヤの空気圧

タイヤの状態を外観からよく確認し、次いで空気圧を点検します。タイヤの空気圧が異常な場合は、以下の推奨空気圧になるよう調整してください。

フロントタイヤ	225kPa
リヤタイヤ	225kPa

2、亀裂・損傷・異物・異常摩耗の確認

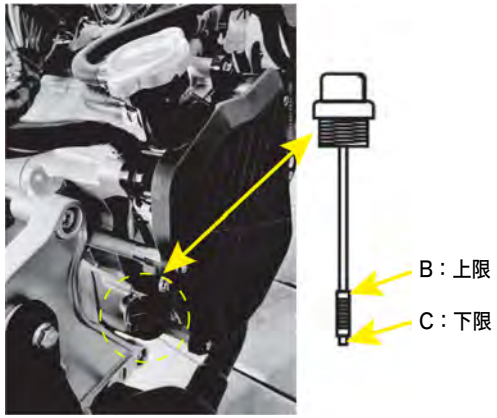
タイヤの表面にひび割れ、損傷、異物、異常な摩耗などがないか確認してください。

燃料の残量の点検

目的地に行くか、近隣のガソリンスタンドまで行ける十分な量の燃料があることを確認しましょう。 もしメインキーをONにした時の燃料ゲージの表示が赤を指している場合は燃料切れが間近ですから、 なるべく早く給油してください。

エンジンオイルレベル（量）の点検

※注意！ オイルレベルは必ずゲージの上限、右図の「B」までの間にあるようにしましょう。エンジンに深刻なダメージを与える恐れがあるため、上限値「B」 以上の量を入れたり、下限値「C」の位置を下回ったりしないよう、注意してください。エンジンオイル量の適切な管理は、使用者の義務です。



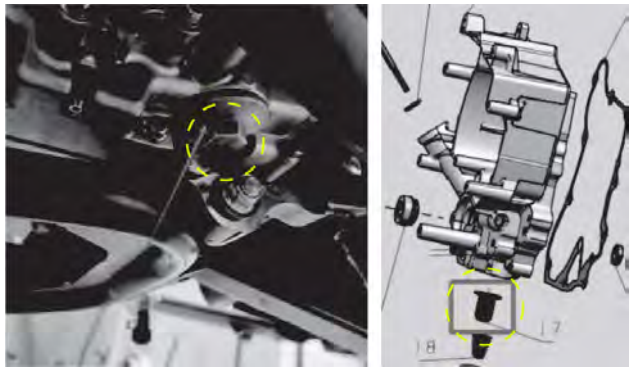
1. 車体をメインスタンドを用いて水平状態に固定します。
2. エンジンを始動し、オイルが十分にエンジンにいきわたったのち、エンジンを停止させます。
3. 5分間待ちエンジンオイルがクランクケースまで戻ってから作業を開始します。
4. オイル注入キャップ/ディップスティックを緩め、外します。
5. ディップスティックに残っているオイルをきれいに拭い、再び所定の位置に入れます。
6. ただし、ねじ込まないこと。オイルに漬けた後すぐに取り外し、オイルレベルを確認します。オイルレベルが右図の「B」と「C」の間にあることを確認してください。
7. 必要に応じて、オイル(MOTUL SCOOTERPOWER OIL)を継ぎ足してください。ただし、上限値である図の「B」を超えて入れることが無いように注意すること。
8. ディップスティックを確実にねじ込んで取り付けてください。

オイル交換

エンジンオイルを完全に排出するには、エンジンを暖機運転する必要があります。その後、次の作業を実施してください：

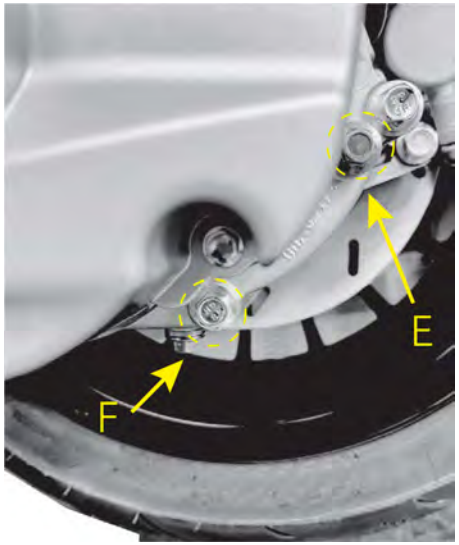


1. メインスタンドを使って車両を地面に対して垂直に保つ。
2. オイルドレンボルト「D」の下に古いエンジンオイルを回収する容器を置く。
3. オイルドレンボルト「D」を緩めて外し、古いエンジンオイルを排出する 。
4. オイルドレンボルト「D」のゴムリングとストップリングが損傷していないか点検、確認し、古いエンジンオイルが抜けきったら再度オイルドレンボルト「D」を締め付ける（締め付けトルク：20N–m）
5. 注入口から新しいエンジンオイルを規定量入れる。
6. エンジンを始動し、2〜3分間アイドリングさせる。
7. エンジンを停止し、オイルレベルが基準値にあるか確認する。



> ⚠ **注意**
>
> オイルを抜いたときは、フィルター・スクリーンも取り外して清掃してください 。

トランスミッションオイルレベルの点検



1. 車体をメインスタンドを用いて水平状態に固定します。
2. エンジンを始動し暖まったら停止させ、約5分間待ちます。
3. オイルフィラーボルト(E)を外し、オイルレベルを目視で確認する。
4. 必要であれば、オイル注入口からトランスミッションギアオイル(MOTUL GEARBOX 80W–90を推奨)を穴から垂れない程度まで補充します。
5. トランスミッションオイルを交換する場合は、オイルドレンボルト(F)を開けて古いトランスミッションオイルがすべて排出されたら再度オイルドレンボルト(F)を締め込み、新しいトランスミッションオイルを規定量注入します。
6. トランスミッションオイルを規定量入れたらオイルフィラーボルト(E)を締め込んでください。

エンジン始動と灯火類の点検

エンジンを始動し、ヘッドライト及びテールライトが点灯することを確認します。
前後のブレーキを別々に作動させ、ブレーキライトが点灯することを確認してください。
また、ウインカースイッチを操作し、左右のウインカーがきちんと動作することを確認してください。

バックミラーの点検

シートに着座し、運転姿勢をとったときに、ミラー内で左右後方が確認できることを点検してください。
ミラー鏡面が清潔なこと、傷や割れなどがないこと、およびハンドルバーに緩みがなく適切に取り付けられていることを点検してください。

ナンバープレートとリフレクターの点検

ナンバープレートがしっかりと固定され、汚れや損傷がなく登録番号がはっきりと見えるかどうかを確認します。同時にリフレクターも汚れや損傷がないか確認してください。

ご乗車にあたって

⚠ 注意

エンジン始動前に、必ず以下を確認しましょう

1. 燃料とエンジンオイルの量が適正であること
2. スクーターを水平かつ硬質な路面にメインスタンドで立てられていて、車体が安定していること
3. ブレーキをかける

エンジンの始動

イグニッションキーをイグニッションスイッチに差し込み、ONポジションにします。

エンジンが冷えているとき：

1. リアまたはフロントブレーキレバーを握ります。
2. スターターボタンを押します。
3. エンジン始動後にストール（停止）しないようスロットルを調整し、エンジンが温まるようにします。

エンジンが温まっているとき：

1. リアまたはフロントブレーキレバーを握ります。
2. スロットルを1/8〜1/4回転程度を開いて保持します。
3. エンジンがかかるまでスターターボタンを押します。

⚠ 注意

エンジンがかかったらすぐにスターターボタンから手を離すこと。そうしないと、スターターモーターやリンクギアに損傷を与える可能性があります。数回試してもエンジンが始動しない場合は、スロットルグリップを 1/8 〜 1/4 回転させてもう一度試してください。エンジンが始動したらすぐにグリップを離してください。

走行開始

メインスタンドまたはサイドスタンドを外し、スクーターに乗ります。

ハンドルバーを両手で持ち、メインスタンドを外します。前後のブレーキを保持しながら、左側から乗車します。シートにまたがったら左足で車体を支えましょう。

⚠ 注意

走り出すまでスロットルグリップを開かないこと。

周囲をよく見て、安全に走り出せることを確認します。

方向指示器（ウィンカー）を出し、周囲をよく確認して走り出しても問題ないことを確認して下さい。走り出すまではリアブレーキレバーを確実に握っておきましょう。

⚠ 注意

特に後方から接近する車両などに十分注意を払うこと。

走り出しましょう。

リアブレーキレバーを離し、スロットルグリップを徐々に開けて、スクーターを加速させていきましょう。

⚠ 注意

スロットルグリップを大きく開けすぎると、急加速などの危険を引き起こしかねません。

スピードを調整します。

スクーターを走らせるスピードは、スロットルグリップのひねり具合で調整します。グリップを手前側にひねれば速度が増しますから、ゆっくりとひねるように気を付けましょう。
減速はスロットルを戻して行います。

ブレーキレバーを引き、停止します

前後のブレーキは常に同時に使用するように心がけましょう。
スロットルグリップから手を緩め、素早く戻して、ブレーキレバーを適切に引き込みます。
ブレーキは徐々にかけ、急ブレーキを避けるとともに、特に濡れた路面や荒れた路面では十分に注意を払いましょう。

⚠ 注意

前後いずれかのブレーキを強く握ることは、スリップの危険性につながります。
急ブレーキや急旋回はトラクションの喪失や事故の第一原因です。こうした急激な操作は避けましょう。

雨天や冬季などは特段の注意を払って運転を。

荒れた、あるいは濡れた路面はタイヤのグリップを低下させます。こうした条件では加速中の急旋回などは避けましょう。前方の車両とは適切な車間距離を維持しておきましょう。
雨天時の制動距離は一般に乾燥した路面の2 倍程度になることを理解し、注意を払って運転しましょう。
スリップは濡れた路面や凍結路面では避けられないものです。したがって運転に集中し、いつでも速度を落とせるよう十分に注意して運転しましょう。

洗車したり雨天や水たまりを走った後は、ブレーキの点検を。

スクーターを洗車した後や、水たまりを走り抜けた後などは、制動力が弱まっていることがあります。ブレーキが通常通り動作するように、速度を落とし、ていねいなブレーキングを行ってようすを見ましょう。

⚠ 注意

スクーターをメインスタンドで直立させているときは転倒しないよう、必ず水平な地面の上に保持し、車体を下り坂に向けたり、柔らかい路面に立てたりしないこと。
必ずスクーターは水平面か、車体を坂の上に向けて直立させ停車すること。

ハンドルバーロックをしましょう。

スクーターを停車させるときは、必ずステアリングロック（ハンドルバーロック）を行い、盗難されないようにしましょう。

点検とメインテナンス

メインテナンススケジュールには、定期点検の間隔について期間と距離が示されています。それぞれ定められた期限の早い方が来たら、指示に従って車両を点検、調整してください。
もしお使いの環境がスクーターに大きな負荷がかかるような状況、たとえば頻繁にエンジンを全開にしたり、埃っぽく空気が汚れた環境下であったりした場合には、こうした定期点検はより頻繁に（短期間あるいは短走行距離で）行いましょう。そうすることで、スクーターの信頼性を維持できるようになります。お買い求めの販売店はさらに詳しく説明できますから、遠慮なくご相談ください。ステアリング関係の部品やサスペンション、ホイールなど操舵系の部品は非常に重要な物なので、極めて注意深く取り扱い、点検する必要があります。安全を最大限確保するためにも、これらについてはお買い求めの販売店か、有資格のメカニックの手に委ねましょう。

初回点検

1000 ㎞走行時の初回点検は最も重要です。慣らし運転期間中に、あらゆる部品は互いに擦り合わされ、エンジン内部の熟成がすすみます。初回点検ではこうした部品のすり合わせを調整しなおし、締結部品の正しいトルクでの締め直しを行い、汚れたエンジンオイルとフィルターの交換を行います。
エンジンの寿命を長く保ち、存分に能力を発揮できるよう、初回点検はタイミングが来たら速やかに行ってください。

⚠ 注意

交換部品は必ず純正の補修部品を使用してください。また、メインテナンススケジュール上で（*）マークで示した個所については、正規販売店での作業を強くお勧めします。それ以外については、本項で示す解説にのっとって個人で点検していただくことも可能です。ただし、このスケジュールにある点検を定められたとおりに実施されない場合、お使いのスクーターへの保証を提供できないことがありますことを、あらかじめご了承ください。

メインテナンススケジュール

このスケジュールに示す各項は、当該点検タイミングで行うべき最も重要な項目です。 必要に応じて、また車両の状況に応じて点検範囲は適宜広げてください 。

略語のキー ：
A：調整、C：清掃、L：注油、R：交換
I：点検と清掃、調整、潤滑、必要に応じて交換

備考

1. * 排ガスに関するプロジェクトを指す。環境保護庁の規制に従い、通常のメインテナンスは取扱説明書の指示に従って実施する必要があり、許可なく調整や修理を行うことは固く禁じられています。
2. 砂利道、砂地、または汚染のひどい特殊な環境で走行する場合は、エアフィルターエレメントの清掃または交換の頻度を増やす必要があります。

Maintenance Item	走行距離	300-600km	3000km	5000km	6000km	9000km	10000km	12000km	15000km	18000km	20000km	21000km	24000km	Remark
	月間	初回	3	5	6	9	10	12	15	18	20	21	24	
燃料ポンプフィルター				C			R		C		R			
スパークプラグ		I	I		I/R	I		I/R	I	I/R		I	I/R	
スロットルコントロール		I			L			L		L			L	
エアクリーナーフィルター		I	C		R	C		R	C	R		C	R	
オイルフィルター(フィルタータイプ)		C			C			C		C			C	
バルブクリアランス		I	I/A		I/A	I/A		I/A	I/A	I/A		I/A	I/A	
ブレーキシステム		I	I		I	I		I	I	I		I	I	
電装品とバッテリー		I			I			I		I			I	
ブレーキフルード		I			I			I		I			I	
ギアオイル		R	R(per5000km)											
エンジンオイル		R	R(per5000km)											
エキゾーストパイプ		I	I		I	I		I	I	I		I	I	
CVTトランスミッション－ベルト、ローラー			I/C		I/C	I/C		I/C	I/C	I/C		I/C	I/C	
ラジエター		I/C	I/C		I/C	I/C		I/C	I/C	I/C		I/C	I/C	
タイヤの空気圧／溝の深さ		I	I		I	I		I	I	I		I	I	
サスペンション		I	I		I	I		I	I	I		I	I	
ステアリング		I			I			I		I			I	
各部の潤滑		I	L		L	L		L	L	L		L	L	
燃料ホース		I						I/R					I/R	
締結部品のゆるみ、規定トルク		I	I			I			I			I		
冷却水の量の点検		I	I		R	I		R	I	R		I	R	
冷却システムの配管および接合部		I	I (check every 2000km)											

リアブレーキレバーナット

エンジンブラケット取付ボルト/ナット

エンジン取付ボルト/ナット

フレーム、ボディのボルト・ナット類について

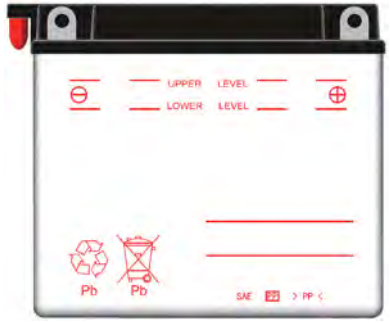
ボディと各部を締結しているボルト類のトルク管理を、初回は500km時に、その後3000kmごと、あるいは6か月ごとに行ってください。

指定トルクは以下の通り

No.	項　目	Nm	kg/ m	参考値
1	フロントアクスルナット	53	5.3	/
2	ハンドルバーマウントボルト	49	4.9	/
3	ステアリングステムナット	30	3.0	/
4	ハンドルバー固定ボルト	25	2.5	/
5	フロントフォークマウントボルト	45	4.5	/
6	マスターシリンダーマウントボルト	10	1.0	/
7	ブレーキホースユニオンボルト	23	2.3	/
8	ブレーキキャリパーマウントボルト	26	2.6	/
9	ブレーキブリーダーニップル	7.5	0.75	/
10	フロントパネルボルト	23	2.3	/
11	リアアクスルナット	100	10.0	/
12	リアショックボルト	40	4.0	/
13	ブレーキレバーナット	11	1.1	/
14	エンジンブラケットマウントボルト	98	9.8	/
15	エンジンマウントボルト/ナット	80	8.0	/
16	アンチダイブレバーアッセンブリ	26	2.6	/

バッテリー

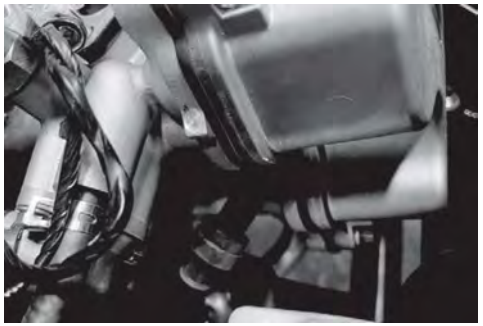
バッテリーは、シート後部の下にある取り外し可能なカバーの奥に位置しています。バッテリーはメインテナンスフリーのシールドタイプなので、液面や縦横上下などを管理する必要はありません。



スパークプラグ

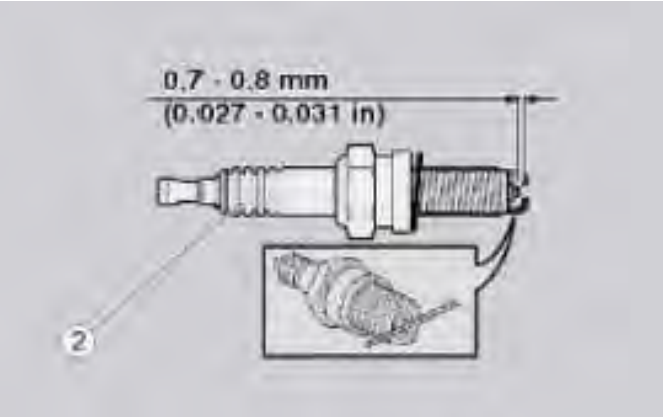
取り外しとクリーニング

左側のパネルのネジを3本緩めて取り外すと、スパークプラグが取り出せます。



⚠ 警告

以下の作業を行う前に、火傷の危険を避けるため、エンジンやマフラー、サイレンサーが常温になるまで冷ましてください。



圧縮空気を使ってスパークプラグベース付近の汚れを吹き飛ばします。次にツールキットに付属しているプラグレンチを使用してスパークプラグを緩め、エンジンから取り外します。そのときシリンダー内にホコリや異物が入らないよう注意してください。外したスパークプラグの電極付近にカーボン堆積物や腐食の兆候がないことを確認します。必要に応じて適切なスパークプラグクリーナー、ワイヤー、金属ブラシなどを使って清掃します。取り除いた汚れがエンジンに入らないように、強力なエアーで吹き飛ばしてください。このときスパークプラグの絶縁材のひび割れ、電極の腐食、または複数の堆積物があるのを発見した場合はスパークプラグを交換してください。
電極のギャップは0.7〜0.8mm程度です。必要に応じて調整してください。
スパークプラグをエンジンに取り付けるときは、まず良好なワッシャーをスパークプラグに装着し、ねじ山を損傷しないよう注意しながらエンジンシリンダーに手動でねじ込みます。ワッシャーがシリンダーヘッドに触れるまでねじ込んだら付属のプラグレンチを使用して締め付けていき、ワッシャーを圧縮します。
交換が難しい場合は、お買い求めの販売店にご依頼ください。

⚠ 注意

スパークプラグは規定のトルクで確実に締め込んでください。取り付けが不完全だとエンジンが損傷する可能性があります。スパークプラグは推奨されている品番の物を使用してください。それ以外のスパークプラグを装着すると、エンジンの性能や耐久性が著しく損なわれ、エンジンの破損につながります。

標準スパークプラグ
NGK CR8E
電極のギャップ
0.6 〜0.7 mm
締め付けトルク(Nm)
10 Nm (7.38 lb ft)

プラグキャップは、エンジンの振動によって外れないようにしっかりと取り付けてください。

燃料ホース

燃料ホースは4年ごとに必ず交換します。

エアフィルター

このスクーターに採用されているエアフィルターエレメントは、ポリウレタン製です。



もしフィルターエレメントがほこりなどで目詰まりしてしまうと、吸気抵抗が増えるため、空燃比が濃くなり、結果として出力の低下と、燃費の悪化につながります。以下の手順に従い、エアフィルターエレメントを点検、清掃してください。

フィルターエレメントの取り外し

*エアフィルター側面カバーの固定ボルトを外し、側面カバーを取り外す。
*エアフィルターエレメントの固定ボルトを外し、フィルターエレメントを取り出す。

エアフィルターエレメントの交換または洗浄

分解したフィルターエレメントが破損していたり、目詰まりがひどい場合は 、そのまま交換することをお勧めします。
明らかな損傷やひどい目詰まりが見られない場合は、以下の手順に従ってエレメントを洗浄してください。

1. エアブローを行う（推奨方法）：フィルターエレメントの損傷を避け、エアーでていねいに吹きます。
2. 水による洗浄（他の方法）：十分なサイズのコンテナに不燃性の水溶性洗剤を入れ、フィルターエレメントを浸し、洗浄します。専用のフィルタークリーナー（MOTUL A1 Air Filter Clean を推奨）が望ましいでしょう。

スロットルケーブルの調整

ロックナットを緩めます。

1. アジャスターを前後に回して、遊びが適正値（0.5〜1.0mm）になるように調整してください。
2. 遊び調整した後、ロックナットを締め直します。

ブレーキフルード

ブレーキフルードは、前後とも DOT 4.1 グレード（グリコール・ベースの油圧ブレーキ専用フルード／MOTUL DOT3&4）を使用すること。
注意：シリコンベース、あるいはミネラルオイル・ベースのブレーキフルードと混在させないこと。ブレーキフルードの異種混用は、ブレーキシステムに深刻なダメージを与える可能性があると同時に、制動力が大幅に低下する恐れがあります。
加えて、過去の整備などで使った残りのブレーキフルードなどを使用しないこと。
ブレーキフルードは吸湿性が高いので、一度開封したブレーキフルードは本来の性能を発揮しません。
またブレーキフルードを過剰に充填したり、塗装面などにこぼしたりしないでください。塗装を痛める恐れがあります。

タイヤ

走り出す前には必ずタイヤの空気圧の点検と、タイヤの表面に異物がないか点検を行うこと。安全性の観点から、またタイヤの寿命や燃費の面からもタイヤの空気圧は定期的に点検し、特に長距離のツーリングに行く前や、二人乗りで走る前には十分注意すること。

タイヤ

不十分なタイヤ空気圧は、タイヤの寿命を縮めるばかりか、スクーターのスタビリティに深刻な影響を与えます。空気圧が低すぎるとコーナリングは困難になり、高すぎると接地面が減って滑り出したり操作不能になりがちです。タイヤ空気圧は指定の範囲内にあるように十分注意してください。
また、タイヤの空気圧は冷間時に測定してください。

冷間時のタイヤ空気圧

(暖地では仕様が変わることがあります)

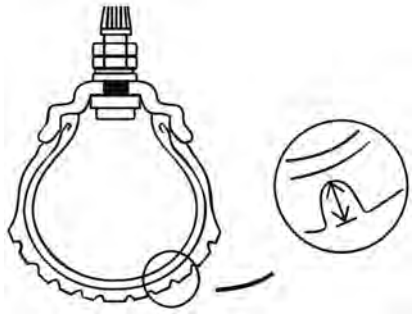
前　輪	225 kPa
後　輪	225 kPa

⚠ 注意

タイヤの空気圧とタイヤの状態は、スクーターが所定の能力を発揮し、また安全にご利用いただくためにも極めて重要です。
タイヤの摩耗や空気圧は頻繁に点検するようにしましょう。

タイヤ接地面の点検

ひどく摩耗したタイヤでの運転はスクーターのスタビリティを損ない、操作不能へとつながりかねません。タイヤトレッド（溝）の深さが1.6mm以下になる前にタイヤは交換しましょう。



⚠ 注意

このスクーターのフロントタイヤには110/70-12、リアタイヤには120/70-12が指定されています。指定サイズ以外のタイヤの使用は車両とのクリアランスに問題が生じる恐れがあるほか、保証の適用外となりますのでご注意ください。

ヒューズ

ヒューズは左側のパネルの下にあります。電気系統に不具合がある場合は、まずヒューズを確認してください。ヒューズが切れた場合に備えて、30/15/10A の予備ヒューズが用意してあります。

⚠ 注意

ヒューズ交換の際には、必ず正しいアンペア数のヒューズを使用してください。決してアルミホイルやワイヤーのような代替物を使用しないこと。スペアのヒューズに交換しても、すぐにヒューズが切れてしまうような場合は、電装系に大きな問題が生じていると思われます。必ずお買い求めの販売店に相談してください。

トラブルシューティング

エンジンが始動しない

エンジンが始動しない場合は、原因を特定するために次の項目の点検を行ってください。

- サイドスタンドが完全に格納されているか？
- スターターボタンを押すとき、ブレーキレバーをしっかりと握っているか？
- バッテリーに十分な電力があるか？（電圧が11ボルト未満の場合、エンジンは始動しません）
- 燃料は十分に入っているか?

⚠ 注意

ガソリン漏れには十分に注意しましょう。特に熱を持ったエンジンやマフラー、サイレンサー、イグニッションシステムなどに不用意にガソリンをこぼさないこと。また煙草などの火気を決して近づけないこと。

スパークプラグを外し、プラグキャップに取り付けてエンジンに先端を接触させてアースしたのち、イグニッションスイッチをONにしてエンジンをクランキングさせます。もし点火システムが正しく動作していれば、火花が明確に飛ぶはずです。もし火花が見られない場合は、お買い求めの販売店に相談してください。

⚠ 注意

スパークプラグをスパークさせる場合は、プラグホール近辺で行わないこと。シリンダー内に残留しているガソリンに引火する恐れがあります。
漏電によるショックを抑えるため、スパークプラグの金属部分を確実に持ち、エンジンの塗装されていない金属面にきちんと接触させましょう。万が一のことを考え、ペースメーカー装着者や心臓に病歴のある者はこの作業を行わないこと。

エンジンストール

・燃料の残量や供給経路を確認
・エンジンのアイドリングスピードを確認
・点火システムの点検

⚠ 注意

いかなる問題においても、ご自身で解決しようとする前にお買い求めの販売店にご相談ください。保証期間内の場合、まずは販売店が車両を点検し修理する必要があります。保証期間内であっても、お客様個人が車両を修復したり手を加えたりした場合、保証が無効になる恐れがあります。

車両を保管する場合

冬季など、長期にわたって車両を使用しないで保管する場合、車両は知識のある者が特別な道具を持って整備し対応する必要があります。このため、長期保管にあたってはまずは販売店に委託していただくことが間違いありません。
もしどうしてもご自身で面倒を見なくてはいけない場合は、以下の各項目を参考にしてください。

車体

車体をメインスタンドで立てて、全体を丁寧に掃除しましょう。

燃料

燃料タンクは空にしてください。

バッテリー

バッテリーをスクーターから取り外します。
バッテリーの外側を中性洗剤などで洗浄し、ターミナルやワイヤリングハーネスに錆が見られれば丁寧に取り除きます。取り外したバッテリーは 0度以上の室温で保管し、かつ適切なトリクル充電器などにつなげておいてください。

タイヤ

タイヤの空気圧は規定値にしておくこと。（P29参照）

外装

ビニールあるいはゴム部品など（タイヤを除く）はゴム保護剤などをスプレーしておきましょう。
塗装していない金属面には、MOTUL E.Z. LUBEのような防錆剤をスプレーしておきましょう（ただしブレーキディスクやキャリパーにはかけないこと）。
また塗装面は、高品質のカーワックスなどで保護してください。

> **⚠ 注意**
>
> ※こうした作業は、長期保管の前だけではなく、Royal Alloyをご購入になった後の最初の仕事としていただければと考えます。
> このスクーターを末永くご愛用していただくための、通常のケア＆メインテナンスとして、ぜひ楽しみながら行ってください。

再び走り出すための準備

スクーター全体を清掃しましょう。
次いで、燃料を補給します。
その後、満充電のバッテリーを装着して、タイヤの空気圧を規定値に戻します。
最後に、本マニュアルに記載されているとおり、必要箇所すべてを潤滑しましょう。
※始業点検の項目をよく確認してください。

諸元表

モデル名	GT125S / GT125S-R
寸法 (mm)	1920 × 695 × 1110
軸距離 (mm)	1380
車両重量 (kg)	145
最大荷重 (kg)	295
燃料タンク容量 (L)	9.0
エンジンモデル名	1P54MI
アイドリング回転数	1800 ± 100 rpm
エンジン形式	水冷SOHC4バルブ単気筒
ボア×ストローク(mm)	54 × 54
排気量	124cc
圧縮比	11.5 : 1
最高出力	9.8kW / 8500rpm
最大トルク	12.0Nm / 6500rpm
エンジン始動方式	セルフスターター式
エンジンオイル (850ml)	SAE 10W-40
エンジン潤滑方式	ウェットサンプ式
トランスミッションオイル (170ml)	75W-80
燃料 (種類)	オクタン価95以上の無鉛ガソリン

タイヤサイズ	
フロントタイヤ	120 / 70 - 12
リヤタイヤ	120 / 70 - 12
タイヤ空気圧	
フロント	225kPa
リヤ	225kPa
フロントブレーキ	ディスクブレーキ
リヤブレーキ	ディスクブレーキ
スパークプラグ	NGK CR8E
ヘッドライト	12V 20/10W LED
ウインカーランプ	12V LED
テール/ ブレーキランプ	12V LED
バッテリー容量	12V 12Ah

諸元表

モデル名	GT150S / GT150S-R
寸法 (mm)	1920 × 695 × 1110
軸距離 (mm)	1380
車両重量 (kg)	145
最大荷重 (kg)	295
燃料タンク容量 (L)	9.0
エンジンモデル名	1P59MJ
アイドリング回転数	1800 ± 100 rpm
エンジン形式	水冷SOHC4バルブ単気筒
ボア×ストローク(mm)	59 × 54
排気量	148cc
圧縮比	11.5 : 1
最高出力	11.5kW / 8500rpm
最大トルク	13.5Nm / 7500rpm
エンジン始動方式	セルフスターター式
エンジンオイル (850ml)	SAE 10W-40
エンジン潤滑方式	ウェットサンプ式
トランスミッションオイル (170ml)	75W-80
燃料 (種類)	オクタン価95以上の無鉛ガソリン

タイヤサイズ	
フロントタイヤ	120 / 70 - 12
リヤタイヤ	120 / 70 - 12
タイヤ空気圧	
フロント	225kPa
リヤ	225kPa
フロントブレーキ	ディスクブレーキ
リヤブレーキ	ディスクブレーキ
スパークプラグ	NGK CR8E
ヘッドライト	12V 20/10W LED
ウインカーランプ	12V LED
テール/ ブレーキランプ	12V LED
バッテリー容量	12V 12Ah

諸元表

モデル名	GT160S / GT160S-R
寸法 (mm)	1920 × 695 × 1110
軸距離 (mm)	1380
車両重量 (kg)	145
最大荷重 (kg)	295
燃料タンク容量 (L)	9.0
エンジンモデル名	1P59MJ-2
アイドリング回転数	1800 ± 100 rpm
エンジン形式	水冷SOHC4バルブ単気筒
ボア×ストローク(mm)	59 × 57.8
排気量	158cc
圧縮比	11.5：1
最高出力	12.0kW / 8500rpm
最大トルク	14.5Nm / 5500rpm
エンジン始動方式	セルフスターター式
エンジンオイル (850ml)	SAE 10W-40
エンジン潤滑方式	ウェットサンプ式
トランスミッションオイル (170ml)	75W-80
燃料 (種類)	オクタン価95以上の無鉛ガソリン

タイヤサイズ	
フロントタイヤ	120 / 70 - 12
リヤタイヤ	120 / 70 - 12
タイヤ空気圧	
フロント	225kPa
リヤ	225kPa
フロントブレーキ	ディスクブレーキ
リヤブレーキ	ディスクブレーキ
スパークプラグ	NGK CR8E
ヘッドライト	12V 20/10W LED
ウインカーランプ	12V LED
テール/ ブレーキランプ	12V LED
バッテリー容量	12V 12Ah

保　証

車両保証の内容と条件について

ロイヤルアロイのスクーターには、登録日より12ヶ月の期間、車両保証が付属しています。ただしこれには通常の使用における損耗、消耗品及びその工賃は含まれません。

すべての修理、作業にはロイヤルアロイ純正部品の使用が義務付けられます。

保証を受けるためにはこのマニュアルに定められた定期点検を適切に正規ディーラーで受けていただく必要があり、これはオーナーの義務でもあります。

販売店は、定期点検記録をつけ、これをロイヤルアロイ社（モータリスト社を経由して）に報告する義務があります。また、納車時には保証登録書（PDIシート）を記入し、お客様にご確認いただき、ご署名いただく必要があります。お客様はこうした保証登録書や作業記録のコピーを受け取り、記録として残す権利を有しています。

ロイヤルアロイのスクーターは初回1000kmまたは6ヶ月の点検ののち、3000km走行、あるいは6ヶ月後のいずれか早いタイミングごとに定期点検を受ける必要があります。

6ヶ月間の限定保証

バッテリー、サイドスタンド、メインスタンド、シート、ホイールリム（歪み）、塗装部品およびメッキ部品（マフラーを含む）、ステッカー及びエンブレム

以上に相当しないすべての部品やコンポーネントは、製造上に起因する、あるいは材料に起因する欠陥等については、保証の対象となります。ただし、通常の損耗、過失、誤用、偶発的な損傷は含まれません。また、当該部品などが単に使用期限を超えて損耗しているとみなされる場合も、保証ではなく一般サービスの範囲で交換していただくことになります。

販売店の責任

ロイヤルアロイの保証を提供するため、販売店は以下の各項に従う必要があります。

1.1: 車両をその登録日で適切にモータリストに対して保証の発効を報告すること（SWRフォームを返送）。

1.2: 車両のメインテナンスにはロイヤルアロイ純正部品を使用のこと。

1.3: 車両に対して行われたサービスは適切に記録し、求めに応じてモータリストに提供できるよう保存すること。

これらの条件を守らない場合、その後の保証については販売店が責任をもって負うことになります。

2. 保証請求のためには、定められたメインテナンススケジュールに従った定期点検が行われ、かつロイヤルアロイ純正部品を使用したサービスが実施されていることが条件となります。正しい点検が行われていることを確認し、また点検の際に必要な消耗品等の部品代の負担を負うことはオーナーに求められた義務です。正しく点検がスケジュール通りに行われていないと保証は受けらえませんから、これを確認することもまたオーナーの義務でもあります。

3. 保証は異常個所における無償の部品交換、もしくは修理に限定されます。この部品交換や修理は正規販売店のみに許された行為です。

4. 製造者であるRA エンジニアリング社、および輸入者であるモータリスト合同会社の責任は保証条件に示されているとおりです。購入者はこれ以外についてクレームしたり、輸送費や宿泊費、収入の欠如などを理由に両社に求償することはできません。

5. 保証は以下の場合無効となります。
a) 商品がマニュアルに準じて適切に使用されておらず、またマニュアルに示された定期点検を適切に受けていなかった場合。
b) 商品がロイヤルアロイ指定の正規販売店以外でサービスされたり、純正以外の部品が使用されていた場合。
c) マニュアルで指定あるいは推奨されていない油脂類やケミカルが使用されていた場合。
d) 商品がレンタル用、あるいは商用目的で使用されていた場合。
e) 商品に加工、改造が行われていたり、商品が事故に遭遇したことがあった場合。
f)商品がその製造目的とは異なる用途に用いられていた場合、例えばクローズドサーキットにおけるスポーツイベントやオフロードでの使用、フリースタイルなどでの使用が認められた場合。
g) もともと商品にない部品を取り付けたり、社外品を取り付けていた場合。

6. 通常の損耗や、車両を通常使用していることに伴う損耗は、製造上の不具合出ない限り、保証の対象外となります。タイヤやチューブの交換、灯火類、スパークプラグ、ヒューズ、ゴム部品、ブレーキパッド、クラッチ、ブレーキケーブル、クラッチケーブル、スピードメーターケーブル、オイルシール、ブレーキディスク、ドライブベルト、フィルター、油脂類、クーラントなどは保証の対象外となります。さびや退色などもまた、保証の対象外となります。

7. プラスティック部品やボディパネルについては、製造上の不具合等であることが、新車としてお客さまにお渡しするときに確認できたものに限って、保証されます。

8. バッテリーへの保証は6 か月以内とします。

9. RA エンジニアリング社はいかなる保証申請についても最終判断を下す権限を有します。

10. 本マニュアルに掲載されている画像や色は、あくまでも参考としてください。車両の詳細、価格、仕様は予告なく変更されることがあります。

MEMO:



https://royalalloy.jp